

## 【国際疫学会発表概要】

## 東日本大震災被災者における、社会的つながりとメンタルヘルスの関連

松山祐輔、相田潤、長谷晃弘、佐藤遊洋、坪谷透、伊藤奏、小山史穂子、小坂健  
 東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野

英題：Social relationships and mental health among the victims of The Great East Japan Earthquake: A multilevel longitudinal study

## 背景・目的

東日本大震災から3年が経過した。しかし43,000名以上が未だ仮設住宅で生活しており、精神的ストレスが大きいと考えられる。社会的つながりがメンタルヘル스에保護的にはたらくことが先行研究にて示されているが、災害後における縦断データを用いた研究は少ない。そこで、宮城県内の仮設住宅入居者の大規模な調査データを使用し、被災者のソーシャルサポートおよび社会参加と精神的ストレスの変化の関連を検討した。

## 方法

宮城県応急仮設住宅入居者健康調査の2012年データおよび2013年データを使用した。仮設住宅の環境要因として、宮城県応急仮設住宅団地周辺環境調査のデータを使用した。精神的ストレスの指標はK6スコアとし、13点以上を精神的ストレスありとした。仮設住宅団地—入居者というデータの階層構造を表現するために、2レベルのマルチレベルモデルを使用した。2012年における被災者のソーシャルサポートおよび社会参加と、1年後の精神的ストレスの関連を、被災者の個人要因および仮設住宅団地の地域要因を考慮した上で検討した。

## 結果

2012年のベースライン調査のうち、研究対象者は18,562名(回収率58.6%)であり、このうち10,874名が2013年の調査に回答した(追跡率58.6%)。調査票の欠損値は統計学的に補完したうえで解析を行った。その結果、K6が13点以上の者は2012年で9.9%、2013年で8.3%であった。2012年のK6が13点以上/13点未満の者で分類して解析を行ったところ、性、年齢、職業、世帯人数、現病歴、身体活動、病院/行政機関/買い物へのアクセスを考慮した上でも、ソーシャルサポートがない人は1年後の精神的ストレスのリスクが統計的に有意に高かった(2012年のK6が13点以上/13点未満の者それぞれにおいて、OR=2.18, 95%CI; 1.63-2.91、OR=1.42, 95%CI; 1.01-2.01)。また、仮設住宅団地全体の社会的つながりは、統計的に有意ではないものの、1年後の精神的ストレスに保護的にはたらく傾向が見られた。

## 結論

仮設住宅入居者において、社会的つながりがメンタルヘル스에保護的にはたらくことが示唆された。仮設住宅入居者の精神的ストレスは未だ高く、継続的なフォローアップおよびケアが必要であると考えられる。

国際疫学会 The 20th IEA World Congress of Epidemiology (2014年8月17日~21日、於アンカレッジ)にて発表  
 (Student awardを受賞)